

淀川水系流域委員会

進捗点検の今後の進め方について

平成28年2月22日

近畿地方整備局

■ 検討の経緯

H24, H25, H26年度の3年間で、淀川水系各河川の進捗点検が一巡した事、これまでの各委員からの意見※を踏まえ、今後の進捗点検の進め方について検討する。

※進捗点検が一巡したら、観点・指標等の見直しも必要といった委員からの意見があり、河川管理者は、進捗点検が一巡したら観点・指標の見直しを行うとして、これまで進捗点検を進めてきた。

■進捗点検の進め方に関する委員からの主な意見

1. 「目標が分からない」、「全体像が分からない」、「俯瞰的な指標が必要」
2. 実施回数（延長や進捗率）だけでなく、進捗のプロセスや成果をどう評価するかが重要
3. 「こういうことを目指しているため、そのアプローチの仕方を色々と工夫している」といった整理をするとわかりやすい

など

■進捗点検の今後の進め方について

1. 河川整備計画に記載されている「具体的な整備内容」を達成することが目標であり、そのために「何をすべきか」「何をしたのか」について、「観点」に沿って整理し、進捗状況を点検する。
2. 「指標」は、指標そのものを一律に点検するものではなく、目標を達成すべきアプローチの一つとして、進捗状況の点検に活用する。
3. 整備計画に記載されている「具体的な整備内容」を達成するための実施内容、あるいはそれらによって得られた効果等についても、「指標」に縛られず積極的に取り上げることとする。

■流域委員会における今後の審議の進め方

1. 引き続き3年間で水系全体が一巡するようローテーションを組み、河川管理者が実施する進捗点検結果について審議。
2. 各年度毎に対象河川の近3年間の取組内容を中心に、河川管理者は点検資料を充実。
3. その他必要に応じて審議を実施。